認知症ケア・健康支援VR

FACE DUO

User's Voice vol.45





医療法人社団久英会・
社会福祉法人久英会
理事長
中尾 一久 先生

慢性期医療機関における健康経営の意義　～中尾理事長のお考え～

健康経営は、職員の健康を守るだけでなく、医療の質と地域の持続性を支える経営基盤

01 「健康経営」がまちづくりにつながる理由

健康経営とは、企業（医療機関）が従業員の健康を重要な経営資源と捉え、戦略的に投資する考え方です。
健康経営が地域づくりと結びつく理由は、次の4点にあります。

① 働く世代の健康が地域の活力につながること
② 生産年齢人口の健康が維持されるほど、地域経済が持続しやすくなること
③ 企業（医療機関）は地域社会を構成する大きなコミュニティの一部であり、その健康施策が地域の医療・介護・福祉と連携することで、地域全体の健康水準の向上につながること
④ 健康経営は「予防」を重視する考え方であること
予防は医療費の抑制だけでなく、地域の生活の質（QOL）向上にも直結します。つまり、健康経営は企業（医療機関）内にとどまらず、地域全体の健康づくりの起点になり得ると考えます。

02 地域共生社会（まちづくり）とは

地域共生社会とは、「すべての住民が支え合いながら、自分らしく暮らし続けられる地域」の実現を目指す社会モデルです。
地域包括ケアシステムをさらに深化・拡大した考え方であり、その特徴は次のとおりです。

① 年齢や障害、疾病の有無にかかわらず、ともに暮らしながらWell-beingの実現を目指すこと
② 医療・介護・福祉・企業・行政が連携すること
③ 住民主体の地域づくりを推進すること
④ 孤立を防ぎ、人と人とのつながりを生み出す仕組みを構築すること
このような地域共生社会の実現において、生活を支える医療を担う慢性期医療は、極めて重要な役割を果たす存在であると考えます。

03 慢性期医療が果たすべき役割

慢性期医療とは、急性期治療を終えた後の患者の生活を支える医療です。
地域共生社会の実現に向けて、慢性期医療は「地域の健康インフラ」として重要な役割を担うべきであると考えます。

(1) 生活と医療をつなぐ「地域のハブ」となる
慢性期医療は患者の生活に最も近い医療であり、次のような役割が期待されます。
① 在宅医療（訪問診療）や訪問看護との連携 ② 介護事業者との情報共有 ③ 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）との協働 ④ 企業の健康経営支援（健康相談や産業医との連携など）

(2) 予防・健康づくりの拠点として機能する
慢性期医療には、疾病管理だけでなく、「悪化させない」「再発させない」という予防の視点があります。
具体的には、次のような取り組みが挙げられます。
① 生活習慣病の管理 ② フレイル予防 ③ リハビリテーションによる自立支援 ④ 地域住民を対象とした健康講座の実施
これらの取り組みは、企業の健康経営との親和性も高い領域です。

(3) 多職種連携の中心として地域をつなぐ
慢性期医療の現場では、医師、看護師、リハビリテーション専門職、介護職、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、管理栄養士など、多職種が協働しています。こうした連携の強みを地域全体へ広げることで、次のような効果が期待されます。
① 医療と介護の切れ目のない支援 ② 住民の困りごとを早期に把握するゲートキーパーとしての役割 ③ 地域包括ケアシステムの強化・深化

(4) 高齢者や障害者の「地域での暮らし」を支える
慢性期医療は、高齢者や障害者など長期療養を必要とする方や、生活機能が低下した方を支える医療です。また、その役割の中には地域共生社会の根幹を支える要素が含まれています。
① 在宅復帰支援　② 退院後の生活設計と継続的な支援　③ 家族への支援　④ 地域の見守りネットワークとの連携

04 健康経営 × 慢性期医療 × 地域共生社会

健康経営、慢性期医療、地域共生社会を結びつけることで、これからのまちづくりにおいて次のような未来が期待されます。

① 企業と医療機関が協働し、地域の健康課題を解決する社会　② 子どもから働く世代、高齢者までを切れ目なく支える地域社会
③ 医療・介護・福祉・企業・行政が一体となったまちづくり　④「治す医療」から「支える医療」への転換
⑤ 住民一人ひとりが主体となり、誰も取り残さない地域共生社会の実現（Well-beingの実現）

健康経営は、職員の健康を守る取り組みに留まらず、地域の健康づくりとまちづくりを支える重要な経営戦略です。

久英会の健康経営　職員の健康が、地域の健康を支える

久英会が目指す健康経営

久英会では、健康管理最高責任者（CHO）による健康経営宣言のもと、職員の健康課題の改善・健康増進、生産性向上やワークライフバランスの充実に取り組んでいます。まず、職員自身が健康を意識することができ、心身ともに健康で活き活きと働ける良好な職場環境づくりを行っていきます。
また、医療、介護、福祉の一体的提供により久英会独自の地域包括ケアシステムを発展させ、職員や家族そして地域の皆様に向け継続的に健康活動と情報発信を行い、地域社会のまちづくりに貢献していきます。

健康を支える主な取り組み

久英会では、職員が健康的な生活を送れるよう、
さまざまな施策を実施しています。

- ☑ 健康管理アプリによる健康状態の見える化
- ☑ 歩数イベントや体力チェック会の開催
- ☑ メンタルヘルス相談・復職支援体制の整備
- ☑ 女性が活躍しやすい職場環境づくり
- ☑ 職員向けオプション検査
  （頭部MRI・骨粗鬆症検査等）の提供

これらの取り組みを通じて、
職員の健康意識向上と働きやすい
職場づくりを進めています。



特に重視している3つの健康課題

久英会では健康診断やストレスチェックの結果を活用し、
次の課題に重点的に取り組んでいます。

① 睡眠・疲労対策
良質な睡眠は、職員の健康だけでなく、業務の安全性や生産性にも大きく関わります。睡眠改善セミナーや生活習慣改善の取り組みを継続しています。

② 生活習慣病の予防
健康診断後の精密検査受診を促進し、疾病の重症化予防に取り組んでいます。

③ メンタルヘルス対策
ストレスチェックや相談体制の充実を図り、不調の早期発見・早期対応を目指しています。

地域の健康づくりにも貢献

久英会の特徴は、職員だけでなく地域住民の健康づくりにも積極的に取り組んでいることです。
医師、看護師、リハビリ職、管理栄養士、薬剤師などの専門職が協力し、健康教室や地域サロンを開催しています。健康に関する知識や予防の大切さを地域へ発信し、住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりに貢献しています。

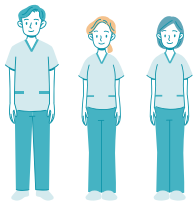




健康経営優良法人に認定

久英会グループは、継続的な健康経営の取り組みが評価され、「健康経営優良法人2026（大規模法人部門）」に認定されています。また、健康診断受診率100%を維持しながら、職員アンケートやストレスチェック結果を活用した改善活動を継続しています。

2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門



まとめ

久英会の健康経営は、**「職員の健康」「働きがいの向上」「より良い医療・介護サービス」「地域住民の健康づくり」**へとつながる好循環を目指した取り組みです。職員一人ひとりの健康を大切にしながら、地域全体の健康価値向上へつなげていく。その姿勢こそが、久英会の健康経営の大きな特徴と言えます。

詳しい内容は久英会のホームページをご覧ください

QRコードを読み取って
ご覧ください▶

出典：久英会「久英会健康経営宣言」Webページ／掲載画像（2026年10月9日参照）
https://www.kyueikai.jp/kyueikai/declaration/

VRトレーニングプログラム「FACEDUO」の活用 ①　「職員の健康課題」に対して

当法人では、2026年7月よりVRを用いたトレーニングプログラム「FACEDUO」を導入しました。職員の健康増進を目的に約150名の職員にFACEDUOを活用した結果を以下に示します。

活用コンテンツ

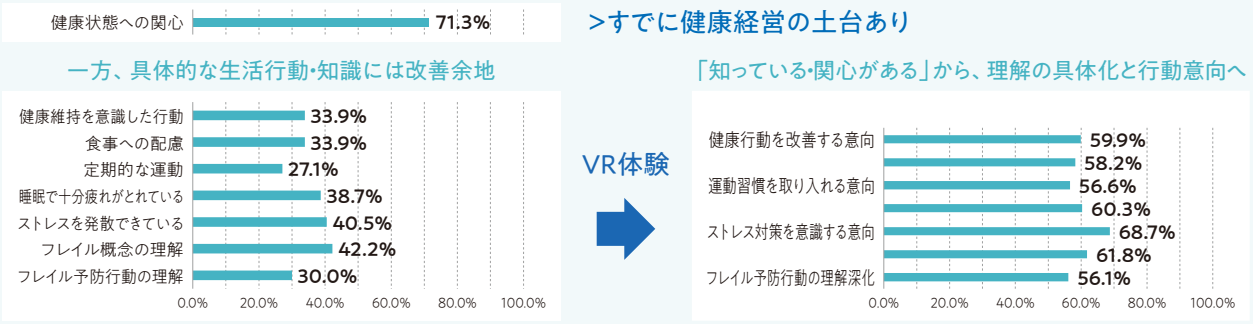

フレイル予防支援VR


熱中症対策VR


認知症ケア支援VR


レクリエーションVR

久英会職員向けアンケート統合分析｜肯定回答=5段階評価の4・5



VR体験前から健康状態への関心は約7割と高く、健康経営の一定の成果がうかがえました。一方、食事への配慮、定期的な運動、フレイル概念の理解、フレイル予防行動の理解は約3~4割にとどまり、睡眠で十分疲れがとれている、ストレスを発散できているといった数値も相対的に低く、改善の余地がありました。
体験後には、フレイルの概念・予防行動の理解深化に加え、健康行動、食生活、運動、ストレス対策を見直す意向が確認され、「心が軽くなった」とする肯定回答も得られ、自由記述では「心が安らかになり、ストレスが減少した気分」「とても癒された」「リラックスできた」など、疲労・ストレス対策につながる反応が抽出されました。

**健康意識が高い集団にも、既存知識の再認識、理解の具体化、行動意向の喚起という上乗せ価値を持つ可能性が示唆されました。
また、久英会における健康経営に対する包括的な取り組みの結果、行動意向から行動変容も確認されています。**

VRトレーニングプログラム「FACEDUO」の活用 ②　「地域住民の健康増進」を目的に

高良台シニアビレッジにて、住民向けコミュニティイベント「はつらつ高良台」を開催し、FACEDUOのコンテンツをご活用いただきました。体操や子犬とのレクリエーション、熱中症・フレイル予防をテーマに実施し、参加者からは「楽しかった」「満足した」と好評の声が寄せられました。熱中症やフレイルに関する理解度も高く、多くの方が予防への意識向上を実感されました。



VRトレーニングプログラム「FACEDUO」の活用 ③　「職員研修」を目的に

54名の職員の方にご体験頂きました。体験を通して、患者さんの「見えている世界」への理解が深まりました。

- 幻視のリアルな見え方と恐怖感を体感できた
- 「否定する」のではなく、患者さんの訴えを受け止め、寄り添うことの大切さを実感した
- 声かけや一緒に確認するなど、具体的な対応方法への理解が深まった
- 部屋を明るくするなど、患者さんに合わせた環境調整の重要性に気づいた
- レビー小体型認知症への理解が深まり、日々の患者さんとの関わりを見直す機会になった



**利用者の方にはレクリエーションコンテンツをご体験頂きました。
長期間入所されている方にとって、よい気分転換になったようで、それを見た職員様の反応も良好でした。**

FACEDUOについて

● 代表的なコンテンツ

認知症関連　認知症の方の症状・気持ちの理解と適切な接し方を学ぶ

認知症ケア支援



認知症の方の気持ち、行動の背景を知り、具体的な対応を学びます。

医療介護職向け
認知症ケア支援



認知症の方の“見えている世界”を体験し、寄り添うケアの本質を学びます。

レビー小体型認知症
認知症の人の世界



レビー小体型認知症の人に見えている世界をVRで体験し、症状の背景や本人の気持ちへの理解を深めます。

新しい認知症観の理解
-体験で変える認知症のイメージ-



認知症になっても地域で自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」への理解を深めます。

健康支援　未来の健康とウェルビーイングを支える

フレイル予防支援

加齢による身体機能の変化をVRで体験し、早期の気づきと予防行動に繋げます。



熱中症対策

見逃されがちな初期症状や判断の遅れを体験し予防行動に繋げます。



● 料金プラン

		定額利用				レンタル利用
		フルプラン	ベースプラン 認知症ケア支援	ベースプラン SST・ひきこもり 家族支援	ベースプラン 感情認知 トレーニング	短期利用プラン
料　金		99,000円/月	33,000円/月	66,000円/月	66,000円/月	99,000円/月
初期費用	VRゴーグル	99,000円/台（初回のみ） ＊2026年10月1日ご利用開始分より適用				なし（3台込み） ＊追加11,000円/台
	iPad	ご施設でご準備いただきます。				11,000円 （必要に応じて）
	アカウント開設費	55,000円/アカウント（初回のみ）				なし
備　考		●ご利用を一時休止した場合、月額料金は発生しません。アカウントは最大1年間保持されるため、必要なタイミングですぐに再開できます。 ●2アカウント目以降は月額料金が半額となります。 ●ゴーグルのご利用台数によって月額料金は変動しません。				●VRゴーグル3台レンタル含む ●連続して2か月までのご利用となります。

詳しくは公式サイトにて

faceduo　検索

販売 Otsuka　開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年11月作成
FD2610014

FACEDUOは非医療機器です。iPadは米国その他の国や地域で登録されたApple Inc.の商標です。